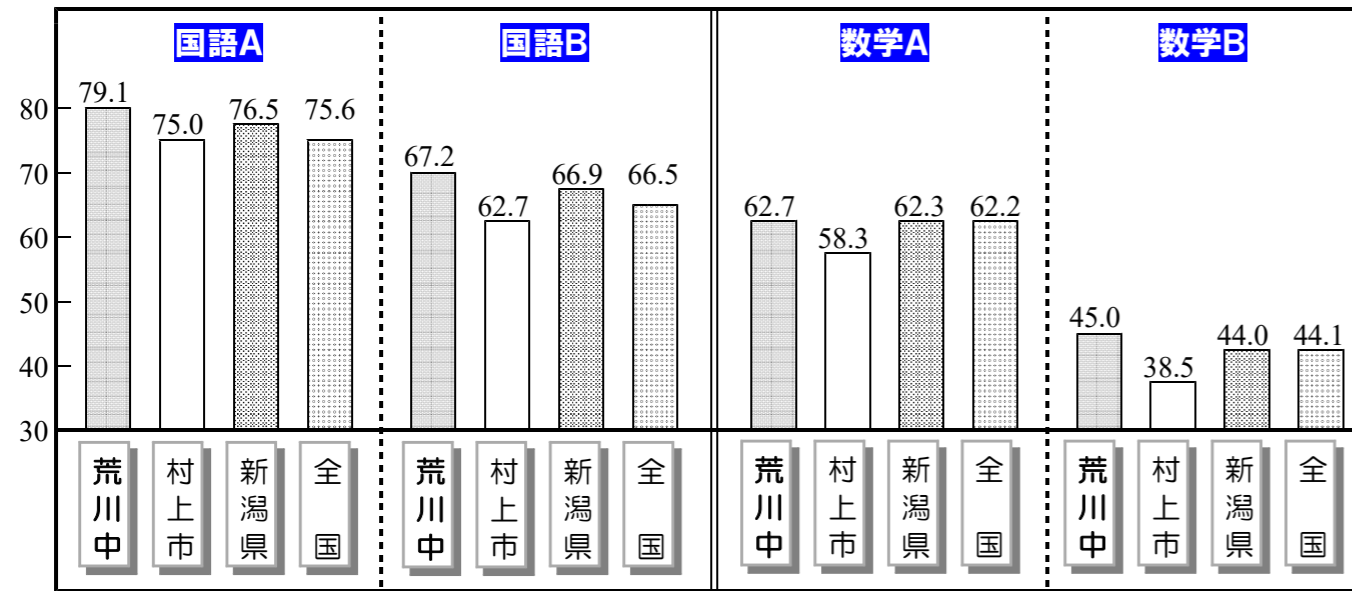


☆平成 28 年度 荒川中学校 全国学力・学習状況調査の結果と分析

【H28.4.19(火) 3年生を対象に実施】

〈1〉各教科の正答率 (A 問題=主として知識 B 問題=主として活用)



〈国語について〉

※ △は問題の分野別でみた荒川中学校の弱点

- 国語A、国語B共に、全国平均を上回っている。
- △学習指導要領の領域等でみると、国語Bで「書くこと」が全国平均を下回っている。
- △出題の趣旨でみると、国語Aでは「文脈に即して漢字を正しく書く」、「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」の正答率が比較的低い。また、国語Bでは「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」の正答率が低い。

〈数学について〉

- 数学A、数学B共に全国平均を上回っている。
- △学習指導要領の領域でみると、数学Aは「数と式」、数学Bは「数と式」「図形」で全国平均を下回っている。
- △出題の趣旨でみると、数学Aでは「分数と小数の乗法の計算ができる」、「正の数と負の数の加法の計算ができる」、「対称移動した図形を書くことができる」、「具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している」の正答率が低い。また、数学Bでは「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる」の正答率が低い。



〈2〉分析結果に基づく今後の取組

(1) 授業改善について

【荒川4段階方式を取り入れた授業改善の推進】

- 第1段階「ねらいおよび課題の提示」、第2段階「自力解決の場」、第3段階「交流学习の場」、第4段階「学習の定着を確認する場」が一貫している授業の構成の再確認とそのスタイルを実施していくことを全職員で再確認する。
- 第3段階「交流学习の場」については、学習状況調査からも、生徒自身が他と関わりながら自分の考えを交流・深化させていることがわかる。これまでの取組を継続する。
- 他教科の公開授業の機会などを活用し、荒川4段階方式の授業構成のバリエーションを増やす。また、そのときの指導案を蓄積し、以後の授業に生かす。

(2) 家庭学習について

- 生活習慣改善に向けて、セルフモニタリングシート（学校帰宅から翌日の登校まで、家庭内における生活を調査する生活習慣表）や小中連携メディアコントロール Dayなどを活用し、家庭と連携して学習指導を進める。
- 「学習のすすめ」等を活用し、各教科・学年等で家庭学習のやり方（予習・復習）を再指導する。
- 各学級の宿題ボードを活用し、教科間で量や内容のバランスを取って宿題を課す。
- 各学年での補充学習は効果を上げていると考えられるので、今後も継続し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指す。

☆11月・12月のアラカルト

○2年生 新潟巡検 【出発式 11月8日(火) 放課後・9日(水) 新潟巡検実施日】



出発式の様子



新潟駅到着後の最終打合せ



日本アニメ・マンガ専門学校訪問の様子



解散式の様子

○表彰式・吹奏楽部アンサンブル・コンテスト参加曲発表 【11月28日(月) 朝会】



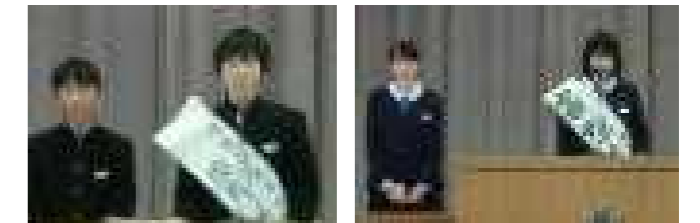
○生徒会立会演説会【12月2日(金) 5・6限】



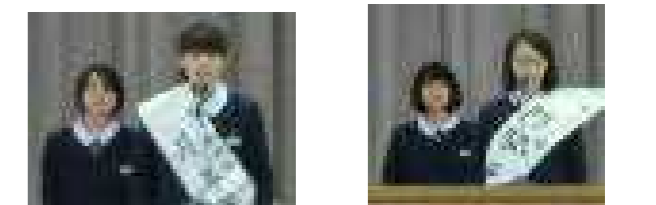
12/10(土)のコンテストに向けての曲を披露
曲名：コタンの「雪」



副会長候補：岩瀬駿佑さんの応援演説をする佐藤颯さん



生徒会長候補の櫻井隆樹さんと富樫美心さん



副会長候補：井上咲南さん・書記長候補：門脇そらさん

☆表彰

11月7日(月)・28日(月)の2日間で表彰を行いました。多くの生徒がスポーツや検定、文化関係で活躍してくれました。特に新人戦といえる大会では、来年がとても楽しみな結果です。さらなる努力を積み重ね、自分の能力や良さを伸ばしてほしいです。

- あいさつ標語コンクール 優秀賞
井上ほのか(2-3)
- 郡市児童生徒科学研究発表会
徳富 貴大(3-1)
※いきいきわくわく科学賞 2016(第52回新潟県児童生徒科学研究発表会)の推薦をもらう
その結果、物理科学部門の最高賞「**県知事賞**」を受賞。(授賞式:12/17メディアシップ)
- 中学生「税についての作文」
村上市長賞 中束 彩乃(3-3)
- 下越地区中学校新人陸上競技選手権
2年男子走幅跳 第1位
相馬 翔(2-3)
1年男子1500m 第2位
内山 暖(1-1)
共通女子4種競技 第3位
富樫 美心(2-3)
共通男子円盤投げ 第4位
坂上 健太郎(1-3)
共通男子4×100mR 第4位
- 県中学校新人卓球大会下越地区予選会
男子団体 第1位
2年男子 第2位 齋藤 嶺(2-1)
〈個人〉 第3位 柏櫓 郁斗(2-3)
第3位 志村 怜威(2-2)
- 第39回荒川オープン卓球大会
中学校男子団体 第1位
中学校2年男子個人 第1位
柏櫓 郁斗(2-3)
中学校2年男子個人 第2位
齋藤 嶺(2-1)
中学校2年男子個人 第3位
佐藤 恭祐(2-1)
中学校2年男子個人 第3位
小池 泰輝(2-1)
- 下越地区中学校新人ソフトテニス研修大会
女子団体 第2位
- 秋季市民ソフトテニス大会
中学校男子の部 第2位
新野 勇人(1-2)
山田 莉久(1-2)ペア
中学校女子の部 第2位
遠藤 瑞穂(1-2)
真保 明音(1-3)ペア
- 下越地区中学生柔道1・2年生体重別大会
男子66kg級 第2位
松本 孝太郎(2-3)
- 下越地区中学生柔道1年生体重別大会
男子50kg級 第3位
松本 裕次郎(1-1)



- 第45回村上市山北地区剣道大会中学生男子
第1位 佐藤 颯(2-1)
第2位 上野 秋星(2-2)
第3位 伊藤 愛雅(2-3)
- 荒川地区剣道大会(第27回松浦賢司杯)
中学生男子団体 第3位
// 個人 第3位 佐藤 颯(2-1)
- 村上市岩船郡中学校読書感想文コンクール
優秀賞 渡邊 彩花(3-1)
優秀賞 木村 実由(2-1)
優秀賞 佐藤 愛海(2-1)
優良賞 小川 知光(3-2)
佳作 中束 彩乃(3-3)
佳作 山田 桜子(3-3)
- 下越地区中学校読書感想文コンクール
優秀賞 佐藤 愛海(2-1)
優良賞 渡邊 彩花(3-1)
優良賞 木村 実由(2-1)
- 愛ランドあさひカップ第6回バドミントン親善大会 Cクラス準優勝
- 第21回神林バドミントン大会 中学生の部
第3位 鈴木 月菜(2-2) &
玉木 遥渚(2-2)ペア
- 実用英語検定
【準2級】
会田 康晟(3-1) 渡邊 駿佑(3-3)
【3級】
佐藤 聖(3-1) 佐藤 智咲(3-1)
佐藤 伶奈(3-1) 金田 陽奈(3-2)
村井 杏伍(3-2) 石井 康貴(3-3)
齋藤 永史(3-3) 坂上慎太郎(3-3)
中束 彩乃(3-3)
【4級】
山本 翔太(3-1) 井上 直紀(3-2)
新野 遥(3-2) 平田 桃子(3-2)
船山 遥加(3-2) 伊藤 朋香(2-1)
近藤 陽菜(2-1) 井上 愛美(2-2)
八幡 俊(2-3)
【5級】
伊藤 貴史(2-2)
- 第47回県ジュニア美術展
【優秀賞】
渡邊 萌花(1-3)・伊藤 陽平(3-3)
【奨励賞】
高橋 慧(1-1)・川村 千華(1-2)
島津 月花(1-2)・室本 千空(2-1)
上野 秋星(2-2)・齋藤 彩乃(2-3)
富樫 美心(2-3)・金田 陽奈(3-2)
栗田 来翼(3-2)
中束 彩乃(3-3)
齋藤 永史(3-3)



荒川中
だより

青い雲

村上市立荒川中学校
平成28年度 第10号
平成28年12月5日発行
Tel. 0254-62-3251



教育目標:「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

目指す学校像:「勢いとハートのある学校」(ハート=熱いハート、温かいハート、柔軟なハート)

「耳の痛い話」

誰しも人から褒められれば、うれしいものです。賢い人は「褒め上手」であり、人を喜ばせることができます。「名人は人を誇(そし)らずく他人を悪く言う。非難する」ということわざもあります。

逆に、批判や忠告を受けると、落ち込んだり、腹が立ったり、反発心が生じたり、相手を恨んだりすることもあります。

私が、中条町の教育委員会に派遣社会教育主事という立場で勤務しているとき、監督的立場の上司から電話があり、初めてこの「耳の痛い話」という表現で指導を受けたことがありました。「ちょっと、耳の痛い話をしなければならぬけど・・・」と前置きがあったので、とても緊張したことを覚えています。内容は、「あなたの名前で出ている文書(制作者は事務局を担当している人)がミスが多かったり、不適切な表現が多かったりして、文書をいい加減に考えているように相手に伝わる。あなたの名前で出されている文書なのだから、配る前に間違いがないようにしっかりとチェックすべきである。」と。

昔から、「耳の痛い話ほど、本音が語られている」といわれます。自分にとっては、不快であり、不都合な話であっても、冷静に考えると、核心を突いたことを第三者が語ってくれている場合があります。「素直に耳を傾けることは、自分にとってマイナスではなくプラスだ」と前向きに捉えれば、耳の痛い話も、大いに自己の向上に役立つでしょう。

どのような話も、取捨選択の決定権は自分にあります。取り入れるか、取り入れないかを決めるのは自分自身です。

しかし、その時は理解できなくても、後になってみれば、「あの忠告が自分のためになった」と思えることは少なくないものです。耳の痛い話を自己の成長に役立てる、心の深さを保ちたいものです。忠告には、素直に耳を傾けましょう。

今日の全校朝会では、「賢い人になろう!シリーズPART II『プラス思考にできる人へ』」の話をしました。この「耳の痛い話」もその一話になります。詳しくは紹介しませんでしたので、このたよりに掲載しました。

全校朝会の主な内容は、織田信長の桶狭間の戦いで、織田軍 4,000 人対今川軍 25,000 人。若き信長は「今が逆境の谷底である。おもしろや逆境。しかも相手は大きい。この大浪(大波)こそ、運命が信長に与えてくれた生涯の天機かもしれない」と人数的に不利な状況で作戦を考え、プラス思考に考え勝利したエピソードを紹介しました。



また、もう一つの話は、平成3年9月の台風19号で津軽地方のリンゴ農家が収穫前のリンゴ9割が落下し、出荷できない状況でした。そこで、どう対応したかの話です。マイナス思考では、落ちたリンゴを見て、途方にくれ、リンゴの生産に見切りをつけた人と、プラス思考では、落ちなかったリンゴを見て「暴風にも堪え忍んだ落ちないリンゴ、受験に落ちない縁起物として売りだそう」と「ピンチをチャンス」に変えた人のエピソードです。

逆境(ピンチ)に立たされても「必ず解決の道はある」と諦めずに取り組むことの大切さや、「ピンチがチャンス」、「逆境こそ面白い」とポジティブ思考・プラス思考に考えて対応することが幸せにつながるという結びです。

☆関連問題:ある靴会社の2人のセールスマンが靴の販売促進のため、南洋の諸島に派遣されました。住民たちはみんな裸足。1人はマイナス思考派「ダメです。だれも靴をはいていません。靴は売れません。」と本社に連絡。プラス思考派のもう1人のセールスマンは、何と言って本社に連絡を入れたでしょう?